

シルバー北見 153号 2026.9

■令和8年9月25日発行 ■(公社)北見市シルバー人材センター広報委員会 〒090-0836 北見市東三輪5丁目1-16 ☎0157-23-6000



<会員登録数>

単位：人

	6 月			7 月			8 月		
	入 会	退 会	月末現在	入 会	退 会	月末現在	入 会	退 会	月末現在
男	2	1	414	3	0	417	1	0	418
女	1	0	161	1	0	162	0	0	162
計	3	1	575	4	0	579	1	0	580

働くよろこび、社会参加の輪を広げよう

第36回 奉仕活動行われる

曇り空のなか皆さんの協力で

6月21日
日曜日

当センターでは発足間もない平成3年から、仕事を頂いている一般企業や市民、関係機関の方々へ感謝の意を込め清掃活動が続けている。36回となる今年も、6月21日(日)に北見13地区の各班が所定の区域でゴミ拾いを行った。

当日は雨模様の肌寒い天候だったが、5地区は北進町のオホーツク眼科前に30名ほど集まった。河合理事の挨拶と工藤地区長の説明のあと宣誓文を読み上げ、石北大通り公園の遊歩道を東西に分かれ開始した。

地区長からの「目立つゴミは無いようですが」の通り、西3号線から4条通りまでの歩道はあまり見当たらなかったが、茂った草むらにポイ捨てのゴミがあちらこちらあった。

途中の通り沿いの太い木に掃除道具一式が括り付けられ、ゴミ箱も置いてあった。「町内会の

人たちが掃除してるんだわ」と皆で感心していると、近くの花壇で手入れをしている高齢者がいたので話を聞いてみた。「町内の皆さんで掃除されてるんですか」「町内会長しかやらないんだ」と不満げな声が返ってきた。

遊歩道は空が見えないほど木で囲まれていたが、出ると霧雨が降っていた。集合場所では役員の方がゴミの分別を行い、他は随時散会となった。今年も奉仕活動に参加して、何かを返せたような清々しい気持ちになった。



5地区の挨拶と遊歩道回り



3・4地区の宣誓や打合せ



2地区の説明と分別



2地区2班は参加者13名が美芳町第二公園に集合し、美芳町、山下町の公園内やその周辺の道路の清掃活動を実施した。この地の清掃活動は10年以上も経過したが、かつて市役所に集合して条丁目を清掃したときは、各自のゴミ袋はどれも満杯の状態で、集約時は大変な量と処理だった。今は、道路や公園内の目立ったゴミはほとんどなく、年月の流れを感じた。この日集めたゴミの量は分別してもわずかで、3袋それぞれ半分以下の量だった。でも参加者充実感に満ちていた。

北見エリアの11地区を

霧雨が追いかけるも無事終了

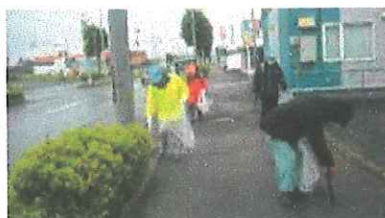
9地区も当日の朝はあいにくの霧雨状態でしたが、会員の皆さん20数名がとん田西町にある「とん田つくし公園」に集まりました。

清水地区長の挨拶のあと全員で宣誓文を唱和して、火ばさみとゴミ袋を手に清掃作業を開始しました。

今年も、常盤公園まで行く人達と5号線のサンライフ北見近くまで行く人達の2グループに分け、道路の端に落ちている紙くずや木くず、燃やさないゴミなどを袋に入れて進みました。

ある会員は「長年来ているけれど、近年ゴミが少なくなかった」と話していました。

1時間ほどの作業で集めたゴミは4袋になり、分別したのち霧雨の中、早々に解散となりました。



9地区の沿道回りなど



330名参加
参加率56.6%



11地区の集合



7地区の分別作業

昨年は雨で中止となったが、今年は雨模様の天候のなかにも多くの皆さんの参加があった。奉仕というぶれない精神が表れている。昨今、ポイ捨てゴミが減ってきたという声がある。

背景には、地域住民や企業・高校生などによる清掃活動が定着していること。広報やSNSでの「不法投棄・ポイ捨ては犯罪」という強化月間や呼びかけがあること。また指定ゴミ袋の価格引き上げによるコスト意識や不法投棄への関心が強まりモラルが高まったことにあるようだ。

当センターの長年行ってきた奉仕活動を今後も続けることが会員の務めと改めて思う。



令和8年度第2回 安全委員会を開く
『声掛けは仲間を守るいのちの綱』
7月は強化月間!! パトロール実施



当センターでは、全国シルバー人材センターの適正就業強化月間に伴い、7月2日に今期2回目の安全委員会を開催し、事故の検証や安全就業巡回パトロールを行いました。

高齢者の労働力が地域社会から求められるなか、全国的に就業中の重篤事故が増加しています。当センターも、4月からの物損事故は全て**草刈り作業中の飛び石**です。同じことを繰り返さないために安全就業を徹底してまいります。



令和8年度活動目標『安全就業の徹底』
◎安全は全てに優先するを基本に事故ゼロへ
◎事故の検証や安全標語で会員の意識を強化
◎健康診断や検診による適正就業を指導
◎安全就業ハンドブックの携帯と活用を強化
◎ヘルメット着用の推進とアルコールチェックの実施

安全就業パトロール

(北見) 草刈り作業・プール管理監視
(常呂) 今年度該当なし
(留辺蘂) リサイクル施設分別・庭木剪定
パトロールの結果

◎プール管理監視では高温多湿の環境のため水分補給など体調管理をされており今後の健康維持を再確認をしました。
◎リサイクルセンターでは資源分別場の整理整頓は良く出来ていましたが、安全帽の着用を奨励しました。
◎剪定作業・草刈りではハンドブックの活用や作業前後のミーティングが継続されていました。

安全就業推進標語 審査結果

最優秀賞

橋本紗織さん(職員)

「やりがい」は安全あつての積み重ね

優秀賞

川原 望さん(職員)

「まあいいか」

このなれこそが不安全

優秀賞

横井武志さん(10地区4班)

急がずあせらず 命を守る

優秀賞

丸山政二さん(3地区3班)

一歩踏み出す前の安全確認

入選

山口茂利さん(5地区4班)

思い出そう講習会

入選

中川志津江さん(3地区1班)

見逃さない

こまかな情報で安全確認

入選

草刈邦雄さん(3地区3班)

元気に仕事 老人パワーも
明るい挨拶から



令和8年度 互助会主催 第25回 パークゴルフ大会開催



6月28日(日)相内ふれあいパークゴルフ場

令和8年度互助会主催のパークゴルフ大会が6月28日9時から、相内ふれあいパークゴルフ場でおこなわれた。あいにくの肌寒い曇り空だったが、職員も参加し総勢19名(内女性3名)となり、早くから練習をしている会員もいた。



ルールを聞いてプレーに臨む

新飯田会長の「体調に気を付けて頑張ってください」などの挨拶やルール説明があり、栗田副会長の開始宣言でプレーとなった。昨日までの雨のせい、芝生が濡れているため、スタート時点では1打目がピンからかなり短かったり、また力み過ぎてかピンをオーバーステイクするプレーヤーが散見された。中盤になる頃には蒸し暑さでハウスに寄って水分補給をしたり、上着を脱いだりする方もいたが、予定時間の11時頃には全員が無事ホールアウトした。今大会の優勝はグロス100で加藤義雄さん、準優勝はネット102の大武利



優勝の加藤さん



大事な1打目、ピンそばへ寄せたいが

章さんでホールインワンも達成した。表彰式では、会長より優勝、準優勝はじめ各順位賞、ホールインワン賞、BB賞、参加賞、80歳以上には特別賞と、両腕で抱え切れない賞品を受け取った会員もいた。最後は弁当も頂き大会は盛会に終了となり、来年度の抱負を胸に散会となった。



うわ外しちゃった



う～ん、もうひと伸びかあ



よく見てお手本にしよう

大会上位入賞者(敬称略)	
優勝	加藤 義雄
準優勝	大武 利章
第1位	大矢根 洋哉
第2位	田村 武志
第3位	宇野 邦雄
第4位	菅原 富士雄
第5位	秋葉 博教
第6位	進 敬
※年齢上位優先、女性にはマ	
イナス4、前年優勝者は	
プラス4のHCとする	
	109 108 107 107 106 103 102 100

『初めて参加して』
早めに行って芝に慣れようと思っていた。殆どの人先に来ていた。湿っている芝ではこの位で打つかなと思っている内に開会式が始まり、上位入賞者と同じ組で回った。今まで上手な人と回ったことがあるが、1打目でピンに寄せ2打目で外しても必ず3打で入る。しかも安定している。それは共通している。この日はなんと大崩れもせず、過分な商品も頂いた。そのうえ弁当も茶碗蒸しやお茶までも付いて。帰ってから早速食べた。美味しかった。役員の方皆さん、大変ご苦労様でした。楽しい大会でした。次回も出ます。(山口)

市民講座

5月～7月

絵手紙教室

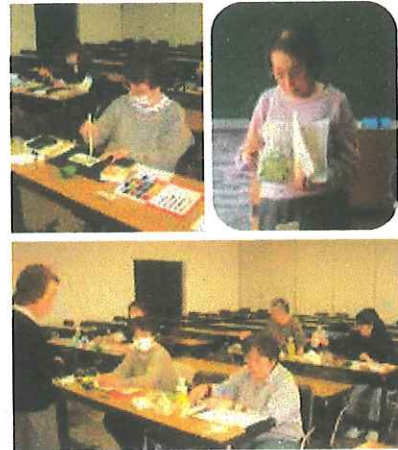
サンライフで開催

令和8年年度の市民講座である「絵手紙教室」が5月18日から7月6日まで、毎週月曜日の午後1時から8回、サンライフ北見で開催することになり、初日の開講日に訪問しました。

開講にあたり今出事務局長の挨拶、そして講師の松村寿代先生の自己紹介や絵手紙の楽しさなどの話がありました。松村先生は20年以上前から同講座やとぶき大学の講師をしています。長年携わってきた絵手紙の良さを伺いました。

絵手紙は「ヘタでいい。ヘタがいい」が合言葉で、ヘタこそその人の個性です。身近なものを題材にして自由に描き、短い言葉を添えて身内や友人に心を送ると、もらった方は気持ちが必要や温かくなりま

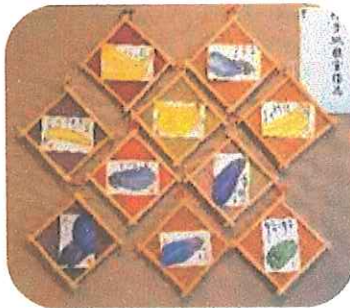
周りの細かいところ目がい、行動的になる、そして友達が増えるなどの良さがありますとのことでした。



受講生の皆さんは、受付に笑顔で声をかけて教室に行きますが、帰りには充実した時間を過ごした満足感も現れていました。

松村先生のサークル「元気の会」の会員は全員が、この講習会の終了生とのこと。皆さん方が、このまま場所を変えて絵手紙にいきなり入っている姿が想像されます。

サンライフ北見では年に一度の講座ですが、愛好者が増えて高齢社会の活力になればと思います。



音楽の広場

橋 幸夫



1960年昭和35年に17歳の高校生、橋幸夫が『潮来傘』で歌手デビューし大きな注目を集めた。当時は高度経済成長の幕開けで活気にあふれ、カラーテレビやマイカーが普及し始める。小学4年生ころ、見ていた白黒テレビに御三家と言われた舟木一夫・西郷輝彦らと3人で出るが、一人角刈り（潮来刈り）だったのが印象深かった。また紅白歌合戦で司会者との会話がたどたどしかったのを今でも鮮明に覚えている。

年上の従妹の家にはポータブルレコードプレーヤーがあって、坂本九・弘田三枝子・中尾ミエらのレコードと一緒に橋幸夫の

『チェッチェッチェッ』があった。リズム感のある曲で、その時は悲しいような楽しいような変な歌だなと思った。潮来傘もどんな傘なのか、歌の意味も理解したのはずっと後の事である。

昨年、惜しまれつつ世を去ってから一年になる。好きな歌手の一人で、写真のジャケットの3曲は今でも車の中でよく聴いて歌っている。（広報山口）

音楽に関する思い出や
逸話をお寄せください

チェーンソー

安全講習会を開く
5月13日(水)

立木を伐採!

今期最初のチェーンソー実技講習が、サンライフ北見屋外で行われた。初心者と経験者9名が参加し、講師の伊藤巧三さんの説明のあと用意した丸太で伐採の実習を行った。

倒す側の受け口と裏側の古い口の切り込みを入れるが、角度や残し幅など上手くいかず中々難しい。中には、持参した充電式チェーンソーで太い丸太を楽に切っていた会員もいた。

一通り終えてから場所を移し、今度は細い低木を実際に切る練習した。最後は倉庫に覆いかぶさっている太い木を全員で伐採する。習った手順で慎重に切り込み、後藤職員も手伝いロープで引き倒して講習会の終了となった。

受講生の皆さんが実習を基に経験を重ね、安全に作業をこなしていく日が早く訪れるようシルバー事務局では期待している所です。



訪問記

住宅の立ち木を
伐採する!

8月22日(土)、個人住宅の庭の立木を伐採する会員2名を訪問した。8時に訪れたが、すでに作業の準備にとりかかっている最中であつた。

今回の仕事は、古くなった梅の木と桜の木を切ること。服部さんが桜の木に登り、最初に小枝を切り落とし、三浦さんがそれを軽トラバックに積み込んでいく。次いで太い枝と幹を切っていく。この枝は、欲しい人がいるので一か所にまとめて置いておくとのこと。小枝や落ち葉は後日、ごみ処理場に持って行って終了する。

服部さんは経験年数が長く、『ロープ高所作業特別教育』や『刈払い機取扱作業』等の資格を持っており、主に高齢者宅の庭木の伐採や、草刈り作業をしている。その件数は年々増えてきているそうだ。また、三浦さんは伐採の仕事を始めたばかりで、服部さんの指示のもと作業にあたっていた。

服部さんは手慣れた中にも常に慎重に、そして安全に作業を進めてゆく。

作業は夕方までかかるという。この日は、日中30度超えの予報、熱中症など体調に気を付けて頑張ってください。



服部和憲さん・4地区4班
三浦 司さん・9地区1班

市民講座 水墨画教室

サンライフ北見で開催
令和8年4月～6月

サンライフ北見で年に一度開かれる水墨画教室が、今年も4月から6月にかけて10回行われた。初心者や未経験者を対象に8名の受講生が集い、講師の松井玉峰先生と若峰先生から手ほどきを受けた。

以前から興味があって初めて臨んだ方や、基礎を習得中の方など中高年齢層の受講生である。先生の丁寧で熱心な指導によって、皆さんは毎回笑顔で教室に入っていく。



水墨画の歴史は古く、7世紀に中国で生まれその後、山水画として完成され、日本には鎌倉時代に禅宗と共に伝来し、室町時代に雪舟などの画僧によって日本水墨画の様式を確立したとされる。一時、西洋画の流入で衰退するが、横山大観らによって現代に引き継がれ、世界中に親しまれている。



松井先生に色々話を伺った。先生はアパレル業界でデザイナーの仕事をして、定年後に来道し水墨画に傾倒。現在は自身や夫人が創設した「墨真会・墨栄会」をはじめ複数の団体を傘下におく「北見水墨画協会」の会長を務めている。また夫人の若峰先生と共に「全国公募日美展」に出品し受賞される水墨画作家でもある。

水墨画の魅力は、墨一色の濃淡と余白によって想像力を広げる表現にあるという。初心者は、色の調合に悩まず濃淡だけで描写できる点や、日常から離れ墨の香りに癒され集中する時間を楽しめることにもある。

また絵心がなくても基礎を丁寧に学べ、自然や身近な物を題材にすることで新たな美しさを見出せるようになる。

受講生からは、毎回充実した楽しい時間を過ごせたことや、このまま入会して学んでいきたい、さらには先生の画きかたを目の当たりにし、やさしく丁寧な指導で基本をしっかり習ったこと、一本の筆にそれぞれの濃さの墨を含ませて画く技術など、最高の講習内容であったとの声が多数寄せられた。

墨真会では教室のほか、NHK ギャラリーや北網圏文化センターなどで、定期的な独自展や北見水墨画協会とも発表会を開いている。だが年々、会員が減少傾向にあり、新たな愛好者の入会が望まれるなか、人形作家の皆川優子さんやイラストレーターなど、他分野の方も水墨画の奥深さを学ぶため入会されている。

受講生の皆さんが、教室で学んだ知識や感慨をそのまま今後の水墨画につないでいかれますように、また講習会や作品展の継続、そして関係機関の啓蒙などで一層の普及を期待します。



作品の講評会



受講生と作品展



今年は、4月18日(土)
サンライフ前の保管庫で!

午前中で700袋

腐葉土
販売

今年は2月の記録的な暖冬から雪解けが進み、3月末にはすっかり雪がなくなりました。高い気温が続いて土壌の乾きが早まり、農作業の開始も平年より前倒しとなったようだ。

過去一番の売り上げ?

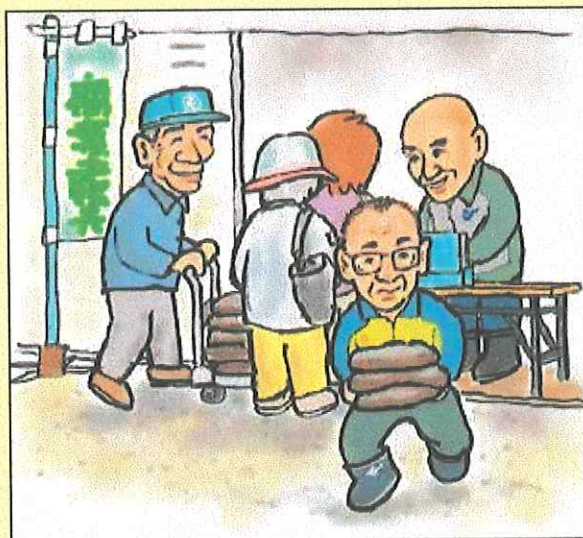
庭仕事も早くから出来るようになり、当日の朝8時にはお客様が列をなしていた。

職員の南保課長と後藤主幹、そして随行さんが次々と訪れる来客に対応。一人およそ数袋購入されていたが、一度に80袋も買われた方もいた。「菜園が広いんだけど、この腐葉土の評判を聞いて、今年は全部入れてみようと思って」とのこと。

入金や車への積み込み、在庫の補充など午前中いっぱい続き、休むいとまもないほどだった。

午前中で115件・697袋の売上があったという。過去に例を見ない数量ではなかっただろうか。

午後から夕方にかけても、サンライフ窓口に来客が訪れ、電話の問い合わせもあった。これは日曜日以降も続いた。



腐葉土事業は平成16年に始まり、これまで市民の皆さんに信頼され広く利用いただいている。それは毎年、シーズンを通して絶え間ない。

創立40周年 記念事業について

昭和62年の創立から今年で40周年を迎えるにあたり、昨年12月に記念事業実行委員会を立ち上げ、これまでに事業内容を検討してまいりました。

振り返りますと過去10年の節目には、その折々の社会情勢に応じた記念事業を開催してきました。最近の全国・全道の状況を見ますと大々的に式典や祝賀会を開催しているセンターは少なくなっている傾向にあります。そのような情勢を鑑み、時勢に沿った内容を考慮し次の3点を企画しました。



- ①年記念誌の発行
- ②記念品の贈呈
- ③施設の設備

(会議室・和室のエアコン取り付け)

これらの実施は今年度中を目途に考えています。近くなりましたらシルバー情報等でお知らせいたします。

先達の会員各位が創立発展させてこられた当センターの40周年を祝い、新たな飛躍をめざして参りましょう。(事務局)



会員のひろば

よろしく願います

新監事 三村 和恵

(3地区1班)

今年度4月から監事に就任した緑ヶ丘の三村さんに、その抱負を聞いた。

「シルバーに入会してから3年ほどたちます。今は、イベントの手伝いや週3回の清掃作業、お墓の掃除などの仕事をしています。今回、事務所の勧めで監事の大役をお引き受けることになりました。何とか役割を果たしていきたいと思いたすので、皆さんよろしく願います。」

仕事上のエピソードがあったらお聞きしたいとお話したら次のような話を聞かせてくれました。

「先日、東京の娘さんからの依頼で、北光の墓掃除に行きました。詳しい名前も墓番号もわからず、1時間ほど探しましたが、市役所にも電話しましたが、それでも場所がわかりませんでした。もうあきらめようかと思った・・・」

瞬間、なんと目の前に、その墓を発見！霊の導きかと思いい、娘さんの思いを込めて、掃除に努めました。」

私の不思議体験

「以前、札幌の創生川付近に住んでいたころの話です。上三軒、下三軒、六軒が一棟のアパートの左下に住んでおりました。そのころ、中学生と高校生の子供たちが、いつも開けていないはずの『クロゼット』が毎朝必ず開いているというのです。さらに、毎晩のように、2階からカーペットの上を引きずって歩く音が聞こえてくると言います。そういえば昔、ここ石狩街道を造った時代、囚人道路といい、多くの人がなくなっていると言いました。実はそのころ、私も『金縛り』にあたり、見知らぬ人が枕元に立ったりしていました。眼鏡をかけたおじさん、髪を束ねた女の人など・・・「あんたなんか死んでいるんじゃないか！」「思わず叫んでしまいました。それでも、代わる代わる現れました。そんなことが

3年近く続いたので、お祓いを頼んだりもしました。本当に恐ろしくて仕方ありませんでした。」

本当に恐ろしいのは

「北見に来てからは、そんなことはなくなりました。霊とか幽霊とか、今でもとても怖いと思っています。でも一番恐ろしいのは、罪のない一般人や子供たちを死に迫いや戦争を引き起こす『人間』だと思っています。」

ミニチュア溜まりました 動物園ができそうです！

職員 川原 望さん

川原さんが、長い間仕舞っていた子供のミニチュアを整理しようと、お披露目がてら事務局の机に並べていたので当時の思い出や出来事などを聞いてみた。

平成20年、小学4年の長男が祖父母と沖縄美ら海水族館に行った時にサメの迫力に心を奪われ、それを機にハマってしまってサメのミニチュアを買ったのがスタートとのこと。

それから周りの皆がお土産にと一つずつ買ってきてこの数になったそう。

中学に入ると本人はあまり興味がなくなり、代わりに4歳下の弟が大切にしながら遊んだという。並べては水族館を作ったり動物園を作ったり。忘れてしまったが、それぞれの動物に名前を付けていて、兄より弟の方がよく遊んでいたと思うとのこと。

このミニチュアは、ドイツの老舗玩具メーカーの『シュライヒ』というブランド品

で、札幌のビッグカメラに並んでいたのを購入したが、中でもサメは高額だったそう。

孫にあげるのにもまだ0歳で早すぎると思っていたが、いずれ遊ぶだろうから結局3世が引き継いだという。

(※カバは後藤職員のものです)



会員のひろば

嘘のような

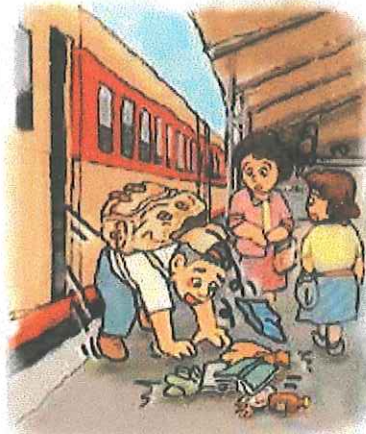
本当の話 4

進 敬 (2地区3班)

帰省での失敗の巻

大学1年生の時、初めて夏休みの帰省が楽しみだった。休みに入るとすぐに十分なお金も持たず、学生寮にあった古いリュックサック(裸の大将山下清氏が背負っていた同じ型)に教科書、ノート、洗濯物等を詰めて17時に盛岡駅発の急行列車に飛び乗った。青森からの連絡船が函館に着いたのが4時30分、急行列車で札幌に着いたのは午前8時になっていた。やつと札幌に着いた。船や列車で睡眠を十分にとっていない報いが、列車から降りる時に起こった。ホームに片足を着いたとき足がもつれて前につんのめって両手を床に叩いてしまった。そのとたんリュックの口から

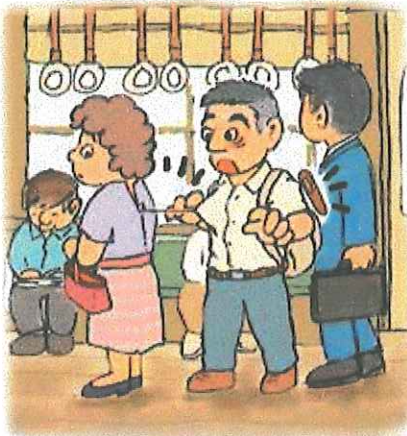
中の物が全部飛び出しあたり一面に散乱した。列車から大勢の人が下りる中、人目を気にしながら教科書や洗濯物を集める姿、まったく恥ずかしくみじめだった。最大の原因は降りる時慌ててリュックの留め金を締めなかつたからだだった。



その足で札幌の琴似の姉の家にお土産を届けに行き、夕方の5時の網走行き急行に間に合わせるため3時ごろ札幌駅に向かう市電に乗った。その日は天気がよく蒸し暑い日で、市電の中は混んでいた。桑園の停留場からは中は満員で身動きできない状態になった。リュックがじゃまもの扱いされて

いる気がした。

駅前停留場についた時、胸元が引つ張られる気がして見てみると、小生のタオル地のポロシャツの糸が前の夫人のブラウスのチャックに引つ掛かっているではないか。夫人が動くとそのチャックがだんだんと下がって大変な状態に。「すみません」と声を上げてチャックを上げやつの思いで下車した。顔から火が出るような大変な思いをした。ほっと汗をぬぐっていると左肩あたりに違和感、よく見るとなんと肩の糸に万年筆がぶら下がっていた。外国製で18Kの高価なものだった。誰のものとはわからずじまっていた。



札幌から急行大雪に乗って北見に向かった。車中ではけなしのお金で買った缶ビールを飲み、するめをかじり、アンパンを食べた。所持金は15円しかなくなつた。遠軽駅まで何とか本を読んだりして元気にしていたが、眠気がしてきて留辺蘂、相内と覚えていてあと少しで北見だと、はっと目覚めたのが呼人駅だった。「しまった、やってしまった。」人生初の乗り越し、網走駅で事情を話したら、「明日6時始発の汽車で帰りなさい」と切符に印をつけてくれた。野宿しようと駅前のベンチで寝ていたらHハイヤー一台が近寄ってきて、「どうしたの」と声をかけてくれた。訳を話すと「うちの詰め所で寝ていけば」と案内され、次の日の5時まで爆睡させてもらった。何とか北見の実家に着いたのが7時半過ぎだった。ハプニング続き、思わず「なんて言う日だ」と叫んでしまった。いやはや大変な実家への列車小旅行だった。

ほのぼのゆなちゃん



いばつ
山崎 茂 20



三人にちけ

シルバー事務局です



です。これから、職場や会員の皆さんと共に仕事に励みながら、

シルバー人材センターで働き始めてから早いもので9年。振り返ると仕事だけではなく、家族との時間や大好きなファイターズとの思い出もたくさん増えました。私にとって生きがいともいえるファイターズ。北海道での応援はもちろん、道外遠征にも足を運び、いろいろな球場で応援してきました。さらに家族みんなで行く、年に一度の沖縄キャンプも大切な思い出の一つです。

家族との時間を大切にし、ファイターズを追いかける日々を楽しんでいきたいと思っています。入社10年目に向けて、これからも一歩ずつ頑張っていけますのでよろしくお願いします。

北見市シルバー人材センター
総務課主任 松本絵理子



編集後記

毎年7月、サンライフ北見を会場に、『介護福祉用具展示会』が開かれています。20社ほどのブースが設けられ、先進的な福祉グッズが展示される。

氷の上でも滑りにくい杖、光や振動による24時間見守り装置、自動ラップ機能のついたポータブルトイレ、さらには、座ったまま入浴できる装置や電動車椅子……。

『核家族』と言われて久しい。せめて、自宅で最期を迎えたいと望むのも、最近では贅沢なようだ。西暦2000年に、『介護保険制度』ができた。「遠くの親戚より、近くの他人」。制度を上手に利用し、残された人生を元気に歩んでいきたいものだ。

『恩送り』という言葉がある。遠く離れて暮らす親や知人にしてあげられることは、限られている。その行いを、近くににいる他人にしてあげることで、いつか自分の親や知人に思いが届くと言う考え方だ。高齢者同士が、支えあわなければならぬ時代がきている。(田中)